10th IARU Region 3 ARDF Championships
6-12 September, 2015 Shibukawa-City, Gunma-Prefecture, Japan

第10回IARU第3地域ARDF選手権大会

平成27年9月6日から12日，群馬県渋川市にて第10回IARU第3地域ARDF選手権大会が開催されました。開催直前に2か国が急遽参加を取り止めることとなりましたが，7つの国と地域（日本，オーストラリア，中国，韓国，米国，台湾，カザフスタン）から111名の競技者が集まりました。

スタッフと予算が少ない状況でしたが，日本選手団と協力したおもてなしで大会開催を成功させることができました。

雨の下での開幕

期間の前半は台風18号の影響による大雨の中での競技となりました。宿舎となったのは渋川市伊香保温泉の山陽ホテル。7日，開会式開催に先立ち伊香保の石段は記念写真の名所であることから，参加者もこれに倣い雨の中を徒歩で移動して集合写真を撮影しました（上の写真）。撮影後はロープウェイで山頂広場に移動し，競技で使用される送信設備による受信トレーニングをおこない，競技者は距離感等を確認しました。晴れれば山頂展望台からの眺めは最高なのですが，残念ながら雨で眺望を楽しんでもらえませんでした。

8日，最初の競技を渋川市赤城町の森林地域でクラシック第1競技を開催。住宅がなく，通行容易な森林が多い絶好の競技地域です。雨が強かったことからス

▲司会を務めたJA1-43532佐藤有早選手とJA7-31034大坂久登選手

▲開会の挨拶をするJA7AIW山之内俊彦会長

▲祝辞を述べるJA1LXG小渕優子衆議院議員

▲JARL選手団（開会式後に撮影）

▲日本選手ミーティングで山之内会長から激励を受けた

▲クラシック第１競技

▲スプリント競技

▲クラシック第２競技

タートするまでの受信機保管場所を，選手の雨避けに張ったシートの下に変更するという柔軟な対応がおこなわれました。強雨の中での競技だったことから，泥まみれになってフィニッシュする選手もいたのですが，無事に最初の競技を終えました。

翌９日，日本そしてReg.3大会で初の公式大会となるスプリント競技（3.5MHz帯）が，伊香保温泉旅館街近くの渋川市総合公園を借り切って開催されました。風雨がさらに強まり，配布された競技地図の作業場として用意されたテントの柱には重しが付けられていてもテントが飛ばされそうになり，テント内の作業用テーブルも吹き込む雨に濡れて使えなくなるほどでしたが，管理された運動公園内のみが競技地域でしたので安全に競技がおこなわれました。競技の後半には風雨は弱まったのですが，走り回っている競技者よりも雨の中で立ったままのスタッフの方が寒くて大変でした。

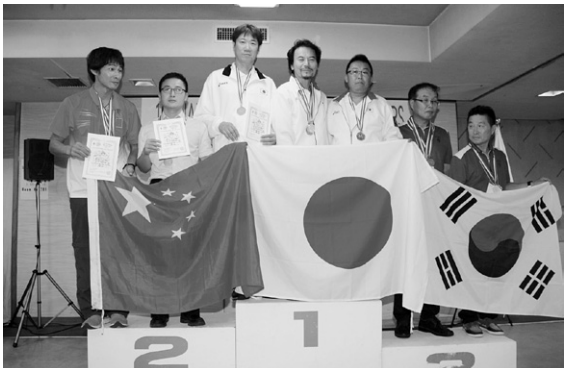
台風18号の影響による豪雨は東日本に大きな被害をもたらしましたが，競技地域にも被害がありました。スプリント競技はその名のとおりスピーディーな競技なのでクラシック競技よりも短時間で終了することから，午後に市内観光が企画され参加者はスーパーマーケット等へ行きました。

海外からの参加選手ほかがミニ爆買いを楽しんでいるころ，スタッフが翌日の競技準備のために競技地域に行くと多数の倒木で大変な事になっていました。

選手移送で通行する道なども倒木で車が通れなく

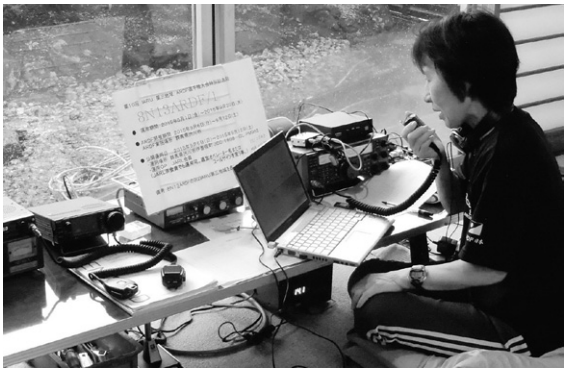
▲FOXオーリング競技（左はスタート，右はフィニッシュ）

▲バンケットでダンスを演じたジュニア選手



▲表彰式（M40クラス団体でJARLが優勝）

▲バンケットでの女性陣の浴衣姿でおもてなし



▲特別記念局8N13ARDFを運用中の日本選手

なっていたので，スタッフ総出でチェーンソー等を使って撤去。スタート走行コースの大きな倒木は撤去不可能なことから，予定していた走行コースを変更することで対応しました。

10日，雨が残る中でクラシック第2競技がスタート。スタート地点は第1競技と同じ場所でした。第1競技はスタート地点から北方向の地域でしたが，第2競技は南方向の地域が使われました。

やっと晴天となった最終競技日の10日はFOXオーリング競技（3.5MHz帯）がおこなわれましたが，このスタート地点もクラシック競技と同一地点でした。

クラシック競技でTXが設置されないスタート位置近くの地域が使われ，スタート地点が同じでもTX設置地域が重ならない工夫がされていました。日本初となった4日間連続の競技開催を無事に終えることができました。

スマート式典

開会式や表彰式等の式典はホテルのホールでおこなわれ，スタッフが所有する機材を持ち寄り，設営もスタッフの手でおこなわれました。開会式と閉会式の司会は若い2名の日本選手が務めました。まず，JA1-43532佐藤有早さん（W21）が英語で語り，その後にJA7-31034大坂久登さん（M21）が日本語で語りました。来賓としてアマチュア無線家でもあるJA1LXG小渕優子衆議院議員の臨席があり，父親（JI1KIT故小渕恵三元総理）もアマチュア無線家であり総理大臣であったことの紹介に外国からの参加者は感激していました。

選手宣誓はJR2FTN鈴木敢統さん（M19）が務めましたが，英語による宣誓がおこなわれ英語三昧の1週間でもありました。

表彰式は9日と11日に前日と当日の2競技分がおこなわれました。表彰式は間延びしがちなのですが，スピーディーな運営がされました。3位までにメダルと表彰状が授与されるのですが，プレゼンテーターは3名が務め3位までに同時に授与。記念撮影が終わると，裏手で待機していた次のクラスの受賞者が呼び出されるという工夫されたものでした。

最後の催しはバンケット（11日）です。国際大会では開会式やバンケットで伝統芸能等が演じられることがあるのですが，今大会では企画しなかった代わりに，バンケット冒頭に日本のジュニア選手達がダンスを披露しました。このパフォーマンスは喝采を受け，アンコールの声に答えていました。ダンスを終えた後に，少女選手は国際大会で人気の浴衣に着替えて各国の参加者と一緒に写真を撮る等の交流を楽しみました。

日本選手

今大会ではジュニア育成のために特別に15歳以下クラスを設け，さらに15歳以下と19歳以下のクラスは各国3名までのエントリーのところ，Bチームを編成して合わせて6名まで出場できるようにしました。

日本はできる限りのフルエントリーを目指し，日本

▲閉会式では運営スタッフが紹介されねぎらいの拍手が贈られました

▲開催１週間前には，運営スタッフの方々によって競技地域で草刈がおこなわれました

からはオープン参加を含めて50名が出場しました。各クラスで日本選手が表彰台に上ることが多く，M40クラスでは日本チームが1位から3位までを独占しました。

8月18日から25日に日本選手は自主強化合宿をおこないました。丸火自然公園（静岡県），高遠青少年自然の家（長野県），富士見高原（長野県）等と過去の全日本大会会場等で実施しました。規定通りの送信設備を用いましたが，新競技であるスプリント競技は競技経験が無いことから，設置距離の想定ができず試行錯誤しながら複数の設置距離で練習しました。TX設置は参加者が分担しておこない，指定された位置に設置しなければならないことから地図読みの訓練にもなりました。強化合宿の参加者は大会で好結果を残したことから，今後も日本代表選手の強化合宿への参加が望まれます。

国際大会に初めて参加のジュニア選手は，国内大会では経験したことのない難易度と海外選手との熾烈な争いを体験しました。ジュニア選手達は今回の大会を通じて大きく成長し，学校で下級生や同級生にReg.3大会の経験を進んでていねいに伝えています。

「悪天候の中での競技は大変だったが，自分なりに納得できる結果を出せた」(JH1EBB宮下楊子さん（W15)),

「タイムオーバーで泣きながら戻った私をチームのみんなが優しく励ましてくれたおかげで気持ちが楽になり，前向きな気持ちで次の競技に臨めました」(JA1-43537梅原萌乃さん（W15)),

「タイムオーバーしたり，入賞を逃したりと悔しい結果もありましたが，今後の大会に生かしたい」(JA1-43539土屋沙樹さん（W15)),

「初の国際大会で思ったより良い結果が得られ，海外選手とも交流が出来て楽しかった」(JA1-43538藤枝沙綾さん（W19)),

「世界のハイレベルな競技に参加できていい体験になりました」(JA1-43540松﨑　誠さん（M19)）。

特別記念局

大会の特別記念局8N13ARDFは5月1日から9月30日まで運用され，延べ13,053局（内国外2,268局）と交信しました。大会期間中は山陽ホテルの最上階の部屋に設置して公開運用をおこない，日本選手も運用に加わりました。

運営

大会は群馬県を始め関東と周辺地域を中心に集まった，日本人国際審判5名を含めて42名のスタッフで運営されました。開催までに現地等に集まっての全体会議は7回，メーリングリストによる打ち合わせは1,500通を超えました。まさしく手弁当による参加で，特に開催が近付くと地元のスタッフは使用許可等で関係する官公庁等との協議に東奔西走する毎日でした。また，大会中は毎夜ミーティングを開催して，その日の問題点が報告され翌日の改善策と注意点等を共有することで，受信トレーニングを含めると5日間連続となる競技運営をやり遂げました。

競技運営は日本の実情に合わせた変更をおこないつつも，できる限り事実上の国際競技規則であるReg.1制定の競技規則に沿ったものとなるよう努められました。クラシック競技は3.5MHz帯と144MHz帯を同地域同時開催し，Reg.3大会で初となる世界大会で公式競技となったスプリング競技とFOXオーリング競技も開催しました。スタート走行コースを複数設けるだけでも苦労するもので，参加者に運営情報を伝えるブリテンも規定通りに4号まで発行しました。

今後のReg.3大会

Reg.3ARDF委員会の会議もおこなわれました。2018年の世界大会をReg.3で開催することは昨年の世界大会（カザフスタン）で決まっていましたが，開催国については今回の協議で韓国となりました。2017年開催予定の次回Reg.3大会については残念ながら開催国が決まりませんでしたが，アメリカからReg.2大会との共同開催としてアメリカで開催することが提案されました。バンケットにおいて共同開催が認められた際は多数の参加を歓迎することが表明されました。

Reg.3各国の実情を考えると確実に開催が見込めるのは3カ国のみで，これとて6年毎の開催は負担が大きいとして，どの国も躊躇（ちゅうちょ）すると思われます。世界大会が開催されない年にReg.3大会を開催してきましたが，今後は隔年開催は困難になるかもしれません。

（レポート：JP3EVM植木　等さん）